

子ども図書研究室だより

2005.4.20 発行 NO.13

静岡県立中央図書館

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

柳田邦男氏 講演会報告

研究室所蔵資料紹介

3月26日(土) 静岡県総合社会福祉会館において柳田邦男氏の講演会が行われました。講演のテーマは「大人こそ絵本を読もう - 乾いた心にオアシスを - 」。

講演会で紹介された絵本の中から、研究室でも所蔵している絵本を一冊紹介します。

『エリカ 奇跡のいのち』

(ルース・バンダ・ジー文 ロベルト・インノチエンティ絵 柳田邦男訳/講談社)

柳田氏の講演は、テレビで絵本について語ったときに視聴者から寄せられた手紙の紹介や、大型絵本に音楽をのせて読み聞かせ活動をされている女優中井貴恵さんとの交流、ご自身の知り合いの方の子育てにおける読み聞かせの効果などから、子どもたちに本を読み聞かせることの意味について語ることから始まりました。また、柳田氏は子どもたちの時間が携帯電話やテレビなどを使ったり見たりすることに多く割かれることを心配されています。そして、読み聞かせをすることで子どもたちに自然に言葉の力が育まれ、感性が育つのではないだろうかと話されました。

アメリカ人教師の私は、ドイツを旅行中に知り合ったユダヤ人女性から彼女の生い立ちについての物語を聞くこととなります。彼女の名はエリカ。しかし、彼女は自分の誕生日も、生まれたときにつけられた名前も分からないと言うのです。

第2次世界大戦。彼女と同じユダヤ人の多くがその命を奪われました。しかし、生まれて間もない彼女の命は、彼女と家族を乗せた汽車が強制収容所に到着する直前、救われました。

その後、本講演会の本題「大人こそ絵本を」ということで、「私が今からお話することは、絵本を通しての人生論と言っていいかもしれません。子どもたちにこう読みなさい、というものではありませんから・・・。」と、氏が出会った絵本についての紹介に移っていきました。

「お母さまは、じぶんは『死』にむかいながら、わたしを『生』にむかってなげたのです。」彼女の告白は、そのほとんどが想像によるものですが、だからこそ、淡々と語る口調の中にある母に対する想いが読む者の心に強く響きます。また、母親の決断とともに、それをしっかりと受け取ったもう一人の母親の勇気にも想いが至ります。彼女の命が奇跡に支えられたものであることを、抑制された文章が語ります。

描かれた美しいシーンにうっとりし、心癒されるという『きりのなかのはりねずみ』。池が白鳥に恋をする世界を絵で見事に描き出している『白鳥』。子どもころの無垢な時代を表現した『よるくま』。自分の持っている絵本に対する既成概念を崩されたと感じた、内田燐太郎氏の絵本。大胆な絵と大胆な発想にいつも驚かされる、長新太氏の『空とぶあひる』。自分自身が子どもだった時代とオーバーラップする『あの森へ』、『アンジュール』という文字のない絵本が語る心情。尊厳死について大いに考えさせられた『赤いオオカミ』。

こども読書週間 4/23~5/12

予定されていた時間は1時間30分でしたが、熱心な絵本の紹介は2時間に及びました。絵本はスライドで紹介されました。

4月23日(土)「子ども読書の日」にスタートする『こども読書週間』。県内図書館においても様々な催しが計画されています。

柳田氏が紹介、解説された絵本は、はじめて出会うものばかりではなく、一度は読んだり手にとったりしたことのある絵本もありました。それなのに、知っていたはずの絵本の知らなかった一面を驚くほど知らされました。

子どもたちのための特別おはなし会や映画会。企画展示や講演会。お休みの多い時期でもあります。子どもたちと一緒に近くの図書館をのぞいてみませんか。子どもと本に関わる新しい発見があるかもしれません。

イベント・講習会情報

子ども図書研究室講座

昨年度開催され、参加者から県中部地区以外での開催希望の多かった、県立中央図書館・研究室講座が、三島市立図書館を会場に開催されます。

日時 5月18日(水) 10:30 から(平日コース)

5月21日(土) 10:30 から(土曜コース)

会場 三島市立図書館

テーマ 「子どもと科学絵本」

問合せ・申込 静岡県立中央図書館 企画振興課

電話 054-262-1246

「座右の絵本」があることが人生をいかに豊かにしてくれるのか。絵本の世界の豊かさは子どもたちだけの物ではなく、大人にとっても大事にしたいものであることが確かめられました。